

司 会：酒田地区医師会会長 本間清和氏
 パネリスト：酒田地区医師会顧問 齋藤好正氏、山形県北庄内医療整備
 推進室長 佐藤護氏、県立日本海病院長 新澤陽英氏、市立
 酒田病院長 栗谷義樹氏、県職員労働組合中央執行委員長
 大泉敏男氏、(財)前田体育振興基金理事 前田直之氏
 コメンテーター：全国自治体病院協議会会長 小山田恵氏



病院統合再編 市民公開シンポジウムが 開催されました

●お問い合わせ／市企画調整課企画調整係 ☎26-5704

1月21日(日)に、市立酒田病院と県立日本海病院の統合再編に関する市民公開シンポジウム『病院統合問題と私たちの医療』が、酒田地区医師会の主催(県、市が共催)で開催されました。会場には、350人の市民が集まり、パネリストおよびコメンテーターによる統合問題と地域医療に関する発言や意見交換などに耳を傾けました。

各パネリストの主な発言内容は次のとおりです。

酒田には2つの基幹病院があり、非常に恵まれていたが、医療をとりまく環境が変化し、2病院が共倒れする恐れがある。

この地域で完結した医療を提供するため、医師の集約化は重要。

国では、病院改革は、地域の医療提供体制の合理的な再編計画がなければ認めないということだった。その後、外部委員会を設けて協議した結果、統合した方が良いということになった。

互いに良いものを持ち寄り、今よりも良いものを作ろうという意志で頑張りたい。

経営形態については、公的責任を担っている立場からすると地方公営企業法の全部適用で病院長にさらに経営権限、責任を持たせていくことが重要である。

できることから連携を

各委員の意見を踏まえ、小山田全国自治体病院協議会会長から、統合再編により医師の配置をも

つと効率化していかなければならない。統合以外に良い医療を提供する体制を組む手法はない。医療の質が高く、研修医が望んで来るような良い病院に再構築してほしい。うまく統合を進めていくには首長、議会、地域住民の合意が必要。協議が長引いて医師が去ることのないように、明日からでもできることから連携していくことが大事。などの発言がありました。

2月上旬に整備基本構想案を提示

佐藤北庄内医療整備推進室長からは、今後、「2月上旬の運営委員会」で新病院の診療科目、病床数、施設整備計画、経営形態等を盛り込んだ『整備基本構想』案を作成し、その後に住民の皆さん、各議会に説明していきたい」と、発言がありました。

最後に市民から事前に寄せられた質問を紹介し、各パネリストが回答しました。主な内容は、下記のとおりです。

病院統合再編については、今後、本紙等で紹介していきます。皆さんのご意見をお待ちしています。

■事前に寄せられた質問(主なもの)

- Q：病院が開業医の養成所になっていないか。そのために経営難になっているのではないか。
- A：病院の医師は過重労働のため開業するというのが現状である。また、開業医と病院は役割分担し連携して地域医療を担っている。開業医が多いために公立病院が経営難になっているということはない。
- Q：病院の不採算部門は、統合によって県財政から切り離されるのではないのか、医療に関する考え方はどのようになっているのか。
- A：県政の大きな柱の一つが「安全・安心」。医療もその一つである。どのような経営形態になっても不採算医療などについては、一般会計部門からの繰出しは行うことになる。今後もそういった支援をしながら、責任を持っていく。
- Q：市のシンボルである酒田病院がなくなるのは不満である。
- A：新しい病院に酒田市の関与がなくなるということはなく、別の形で関与は深くなる。新しい市立病院ができるのだということをご理解願いたい。